



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 15

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1982年石川県出身。2002年、『忍風戦隊ハリケンジャー』で俳優デビュー。05年に映画『パッチギ』の主演に抜きされ、第29回アカデミー賞新人俳優賞、第27回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞を受賞。映画を中心に、テレビ、舞台などにも活躍の場を広げている。国内外での社会貢献活動にも積極的に取り組む。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。

小学生の時に両親と離れて暮らすことになり、新聞配達などをしながら自活をしていました。今の自分があるのは、その時々で周りの人の支えがあったから。そんなこともあり、今度は僕自身が誰かの助けになりたいと思い、老人ホームや児童施設で大道芸や自転車のパフォーマンスをしたらすごく喜んでもらえたんです。それが僕の社会貢献活動の始まりで、今ではライフワークになっています。

俳優を志したのは15歳の時。さまざまな仕事やアルバイトを経験する中で、どんなことでも一生懸命取り組めば必ず成功を勝ち取ることができると確信しました。そして、自分のバックグラウンドを生かして一生かけてできる職業は何かと考えて、たくさんの人生を生きることができる「俳優」に挑戦しよう。自分にとっては、俳優という職業もボランティアなどの支援活動も、生きる上で必要なもの。仕事とプライベートを分けて考えたことはありません。

国際協力への関心が高まったのは、



photo by Takeshi Kuno

0.1秒の瞬発力を持つ

俳優 塩谷 瞬

SHIOYA Shun

俳優を始めて海外に行き出して、アフリカ、タイ、中国、アメリカ、ヨーロッパを回ったところからです。中でも記憶に残っているのが、ケニアの奥地の村で世界一の大家族の家にホームステイをした時の経験。そこには日本で忘れかけられている家族のつながりや温かさ、そして毎日生き抜くための厳しいルールがあった。それを見て感じて、もっと世界のことを知りたいと。現実と向き合うことは人間としての責務だし、光も闇も、自分の人生を豊かなものにしてくれる大切なものです。

今年1月には「なんとかしなきゃ! プロジェクト」のメンバーとして、21世紀初の独立国である東ティモールを訪問しました。JICAのプロジェクトを見て感じたのは、日本の技術力の高さです。あるものを単に“変える”のではない。どうしたら現地の人々が幸せな暮らしを送ることができるか、JICAの人たちは彼らの社会や文化を尊重しながら問題解決を図っていました。これまで政府開発援助(ODA) がきちんと使

われているのか疑問に思っていた部分もあったのですが、両国の人々が一緒に問題を乗り越え、国づくりのために一致団結している姿を見て、このような現場のストーリーをもっともっと発信していくべきだと感じました。いつか自分が世界で見てきたことを作品にしてフィルムに焼き付け、未来に残していくことが俳優としての夢です。

途上国の人々は“ゼロ”からスタートするパワーがあります。これはまさに日本人が学ぶべきところ。今年、日本では東日本大震災という試練が起こりました。今、僕たちに求められているのは0.1秒の瞬発力、団結力、生きる力。時には本能で感じるまま行動に移すことも、世界を変えるために必要ではないでしょうか。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ [なんとかしなきゃ.jp](http://nantokashinakya.jp)